

チェコ人舞草刀継承

一関・大東でボルフさんら3人

94歳菅原さんに師事

弟子入り、1週間研修

一関市大東町大原の刀匠、菅原平さん(94)の下で、チェコの刀鍛冶パベル・ボルフさん(39)が11月2日まで技術習得に励んでいる。独学で作刀を続けてきたボルフさんは、日本刀の源流とされる舞草刀の復元に生涯を懸けて取り組む菅原さんと、その後継者不足を知って訪問。菅原さんは集大成の仕事と位置付け、海を渡ってきた「弟子」と舞草刀作りに挑む。

ボルフさんによると海外では居合やコレクションなどで日本刀の人気が高く、現在はインターネットなどを通じて各地に顧客を持つという。チェコではボルフさんを含む2人が、材料や製法にこだわって日本刀を作っている。

期待する。今回は大東地域でたたら製鉄を再現する「ホッパの会」(小野寺秀逸会長)も協力し、材料に地元児童が採取した砂鉄による玉鋼を提供した。

居合を通じて日本刀に出合ったボルフさんは、2000年ごろから刀作りを本格化。ボ

ルフさんによると海外では居合やコレクションなどで日本刀の人気が高く、現在はインターネットなどを通じて各地に顧客を持つという。チェコではボルフさんを含む2人が、材料や製法にこだわって日本刀を作っている。

今回の取り組みは、フェイスブックを通じてボルフさんと知り合った舞草刀研究会(中鉢弘会長)が企画。同会によると、舞草刀は一関周辺で舞草鍛冶と呼ばれる鍛冶集団が生み出し、平安期に最盛期を迎え、日本刀のルーツとされるという。

菅原平さんは約50年間、たたら製鉄による菅原平さん(右)が見つめる中、舞草刀復元の技術習得に励むパベル・ボルフさん(右から2人目)とマーティン・オルナックさん(同3人目)、ヤン・ベネスさん



験を伝えたい」と向かい続けている。